

1 講座名・キャンパス

(1) 講座名

科目名	実施時期	曜日	時限	授業時間	公開定員
人間工学	春学期 (令和7年4月～ 令和7年7月)	金	3	13:20～15:00	10名
電気情報工学の基礎		月	4	15:10～16:50	10名
資源循環工学		月	3	13:20～15:00	10名
機械技術史		火	2	10:50～12:30	10名
日本建築史		水	1	9:00～10:40	10名
福祉施設の計画		金	1	9:00～10:40	10名

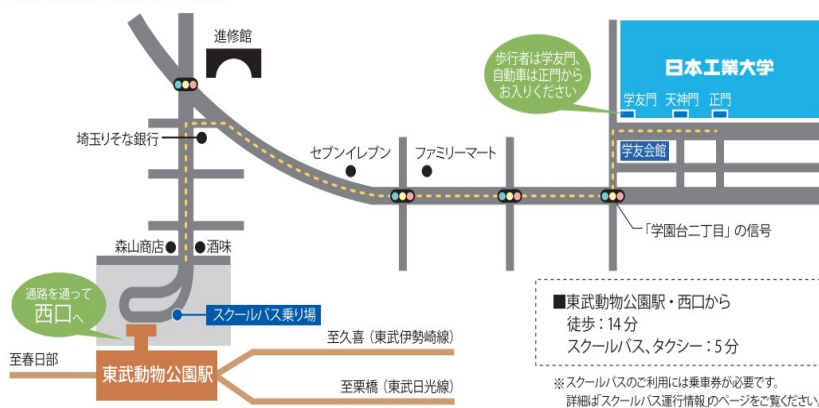
*この実施予定は1月8日現在のものです。社会情勢や諸般の事情により、変更や中止になる場合もありますので、ご了承ください。

*上記講座のお申し込みにあたっては、本学 [生涯学習センターホームページ](#)

(<https://www.nit.ac.jp/campus/center/life>) に掲載する「令和7年度春学期要項」を熟読のうえ、お申し込みください。

(2) キャンパス

■東武動物公園駅からのご案内



■新白岡駅乗車場所



東武動物公園駅西口より、徒歩14分、スクールバス5分。

JR宇都宮線・新白岡駅東口より、スクールバス12分。 *スクールバス料金：100円/片道

スクールバスの運行情報・ご利用につきましては

[スクールバス運行情報・乗り場案内 | 実工学教育の日本工業大学 \(nit.ac.jp\)](#)

(<https://www.nit.ac.jp/campus/access/bus-info>) をご確認ください。

2 受講料・テキスト

- (1) 受講料 : 1科目につき 10,000 円
 (2) その他 : 教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます (書名、購入方法等は別途ご案内します)

3 受講の申込み

- (1) 申込期限 令和7年3月3日(月) (消印有効)

- (2) 申込先

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
 日本工業大学 生涯学習センター
 電話 : 0480-34-4111 (代表)
 E-mail : shougai@nit.ac.jp

- (3) 申込方法

以下の事項をご記入のうえ、E-mail または官製はがきでお申込みください。
 (電話での受付はしておりません)

- ① 住所 ② 氏名 (ふりがな) ③ 年齢
 ④ 電話番号 ⑤ 受講希望科目 (複数科目の選択可)

- (4) 受講手続

受講のお申込みを確認後、本学生涯学習センターより通知書を送付いたします。
 この通知書を熟読のうえ、所定の期日までに受講料の振込み等、受講手続を行ってください。

- (5) その他

本学が開講する開放授業講座を、今年度春学期 (前期) から新たに受講される方におかれましては、1 回講義に先立ち、受講いただくにあたっての諸説明を目的としたオリエンテーションを開催します。日時等の詳細は、受講手続をいただいた方へ個別に連絡いたします。

4 各科目の概要及び担当教員

科目名 (担当)	授業科目の概要
人間工学 (細田 彰一 教授)	我々が作る道具にとって、人間は必要不可欠かつ仕様変更のできない「部品」である。そのため設計行為は、人間を中心としたシステム設計として考える必要がある。本科目は、人間工学の基礎である、人間の各種機能性能を中心に学ぶものである。前半は人間工学のベースとなる基本的な生理的、心理学知識について学ぶ。後半は主に寸法系の手法について学ぶ。
電気情報工学の基礎 (電気情報工学科教員)	本科目は、電気情報工学科で学習する専門科目について、幅広くオムニバス形式で学習する科目である。本科目では、「デシベル (dB) とは何か」、「電波とは? 電波はどこまで届くのか?」、「社会インフラを支える電気技術」、「電力システムと再生可能エネルギー」、「統計、データの表現方法」などをテーマに、基礎的な内容や最新のトピックを各分野の専門教員が講義する。

<p>資源循環工学 (内田 祐一 教授)</p>	<p>工業材料やエネルギーの製造と循環利用に関する科学技術とその技術革新を理解する。さらに、素材・エネルギー原料としての各種資源の現状を地球規模および環境負荷の視点から概観し、資源循環の必要性や課題を実践的に理解する。 講義および演習形式で行う。講義で課した課題については講義時間内に解説する。</p>
<p>機械技術史 (神 雅彦 教授) (二ノ宮 進一 教授)</p>	<p>ものづくりの歴史は、人間の営みと密接に関わっている。旧石器時代からの石器は衣・食・住の人が生きるための原始的な刃物であり、土器は入れ物である。鉄の時代になってからは、大工道具、農工具、武具などとして細分化していった。明治時代以降は、蒸気の動力を得て自動で強力な機械として発展していった。現在は電力機械が主流となり、近年ではコンピュータとも融合し智能化している。本科目では、加工の技術を中心とする技術史を学び、機械と人との係わりについて考える。</p>
<p>日本建築史 (野口 憲治 准教授)</p>	<p>歴史を学び、日本建築の意匠や技術について理解を深めることで、継承すべきものやあるべき環境について総合的な判断や考察ができるようになる。加えて、今後の建築に何が求められているかについて本質的な視点で考え、建築設計等に役立てることができるようになる。そうした素養を身につけるために、日本建築の歴史を、社会的背景、設計技術などを踏まえて体系的に理解する。</p>
<p>福祉施設の計画 (勝木 祐仁 教授)</p>	<p>高齢者の暮らしを支える施設を中心とした、各種福祉施設について、歴史的な成立背景と今日的な意義を理解した上で、利用者、家族、職員にとって適切な施設として実現するための建築計画上の知識・技術を身につける。</p>